

II 保育の在り方、幼児への対応

内 容		評価
1、健康と安全への配慮		
①	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認している	A
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している	A
2、幼児のみとりと理解		
①	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされる様配慮している	A
②	一人の幼児をじっくりと見ながら見えない所で活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	B
③	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	B
3、指導とかかわり		
〔心のよりどころとして〕		
①	幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている	A
②	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている	B
③	幼児の話をよく聞くようにしている	A
④	“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている	B
〔遊び・活動の援助者として〕		
①	幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイディアを提供している	B
②	幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている	A
③	禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている	A
〔その他〕		
①	幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている	A
②	障がい児が入園した時、個別の対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている	A
4、保育者同士の協力・連携		
①	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	A
②	指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって、工夫し対応するようにしている	A
③	他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れている	A

5、保育の在り方、幼児への対応でよく出来ていると思ったこと	具体的な例
スタッフ同士で共通理解し、対応を統一していることで、混乱させない	
6、保育の在り方、幼児への対応でこれからの課題と思ったこと	具体的な例

- A よくできている
- B まあまあできている
- C あまりできていない
- D まったくできていない